

## 6. 新興国ブラジルの対外関係 - 世界金融危機を踏まえて -

### イ．調査の目的

近年、ブラジル経済が比較的好調なことに加えて、資源輸出国としても世界経済に与える影響力が大きくなっている。ブラジルは国際関係においても、存在感を高めている。ブラジルの外交理念は「責任ある現実主義的な全方位外交」であり、この理念を踏まえて、広範囲な国際関係の問題に積極的に関与している。

本報告書はこのような外交方針を踏まえたブラジルの対外関係を分析することによって、同国との関係強化に資する情報を提供することを目的としている。

### ロ．調査結果の概要

本報告書は次の6章で構成されている。

#### 第1章 国際金融界とブラジル - 対立、協調を経て参画の時代へ

ブラジルと国際金融界の関係は1980年代の累積債務時代における対立関係から、90年代末にブラジル通貨危機を契機に協調関係に転じ、そして2008年の世界金融危機を打開するために各国との政策協議に参画するようになってきている。このような変化の背景要因としては、ブラジルが国境を越えた資金の受け手のことが多かったが、近年は資金の出し手としての存在感を強めていることも影響している。

#### 第2章 統合EUとブラジル - 新コロンブス・ルートを形成

ブラジルは内海のような大西洋を挟んで、欧州連合（EU）と交流を深めている。ブラジルとEUは共にグローバル・プレーヤーになっていることが関係強化を促している。一方、ブラジルにとって米国との関係も重要であるが、対EU関係はブラジルの「見えない対米カード」となっている。欧州からブラジルへの企業進出や資金流入は植民地時代とは逆の流れを形成する新コロンブス・ルートが作られつつある。

#### 第3章 米国とブラジル - グローバルな『大人の関係』

経済のグローバル化と対外関係の多様化が進展していることによって、ブラジル・米国関係も変化している。それは伝統的な2国間で完結する関係から、グローバルな問題にも両国が関与するように変化している。従ってブラジルの対米関係も親米か反米のどちらかという割り切り方では判断できない状況となっている。ブラジルは米国と協調することもあれば、独自の立場を主張することもある。ブラジルは近年、途上国との関係（南南関係）においてもリーダーシップを発揮して外交の独自性を発揮していることも注目される。

#### 第4章 ポルトガル語圏諸国とブラジル - 共通の言語・文化を活かして

ブラジルはポルトガル語圏諸国との連帯強化に取り組んでいる。共通の言語と文化による連帯強化を目指すポルトガル語諸国共同体（CPLP）を通じて、経済関係の強化

も重視している。その成果としては 1990 年代後半からはポルトガルからブラジルへの直接投資が増加している。また、アフリカのポルトガル語圏諸国を足場にブラジルは、アフリカとの関係を強化している。ブラジルはアフリカへの輸出や石油開発、エタノール普及や農業開発にも取り組んでいる。

#### 第 5 章 中国とブラジル - 補完関係と競争関係

中国はブラジルの重要な貿易パートナーとなっている。ブラジルの大豆や鉄鉱石は中国の重要な供給源である。一方、中国はブラジルにとって工業製品の主要な供給国に成長した。その反面、ブラジルの工業製品は国内市場や第 3 国市場で、中国との厳しい価格競争に直面している。資源確保を目指す中国はブラジルの関連分野への投資を拡大している。ブラジルのヴァーレが鉄鉱石ビジネスや石炭部門で、中国で生産活動を展開している。ブラジル・中国間の鉄鉱石や大豆等の一次産品取引の動向は、世界の需給に与える影響が大きい。

#### 第 6 章 メルコスールとブラジル - 関税同盟の内憂外患

ブラジルにとってメルコスールを発展させることは、重要な政策課題である。しかし、メルコスールの結束維持は容易でない。経済力についてはブラジルが他の加盟諸国を引き離していることから生じる貿易摩擦が、域内の自由貿易推進を遅らせる要因になっている。更に「21 世紀の社会主義」を主張するチャベス大統領が率いるベネズエラの正式加盟を巡って、域内諸国は意見が分かれている。全方位外交を重視するブラジルがどのようにしてメルコスールの結束を維持するか、その調整手腕が問われている。